

情勢報告

アスパラガス目慣らし会で出荷物の統一



参加者全員で目慣らし。

平成22年5月11日にJA土佐あき園芸研究会のアスパラガス部会が出荷物の目慣らし会を開催した。出荷規格に沿って農家が選別し、出荷しているが、選別に微妙な感覚のズレがあるため、意識統一を目的に振興センターとJAが部会員に呼びかけて開催した。部会員の「これはOAやろ。」、「こんな場合はどっちにする?」といった積極的な意見交換や発言により、出荷規格の意識統一が図られた。

今後も、定期的目慣らし会を開催して、出荷物の規格を再確認していくとともに、振興センターは現地検討会も開き、栽培技術の研鑽を図るよう仕向けていく。

土着天敵温存ハウス設置グループが交流会



天敵利用苗とは?

安芸集出荷場園芸研究会では、3つの土着天敵温存ハウスグループ（以下、温存HGと略、計54人）が活動している。そこで、5月17日に土着天敵に関する情報交換や農家同士の親睦を目的とした交流会を開催し、地区外の1温存HGを含む農家13人と関係機関など計30人が集まった。

会では、各温存HGの代表が取り組み状況を報告するとともに、振興センターから21年度に温存HGの協力を得て作成した『土着天敵利用の手引』や‘簡易ゴマバンカー’による土着天敵タバコカスミカメの放飼試験結果などについて紹介した。また、‘天敵利用苗’を生産している種苗会社から取り組みの紹介があり、農家からは「育苗中に殺虫剤を使用していないと、天敵を利用しやすい」との声が聞かれた。

管内での土着天敵の利用は急速に拡大しているが、まだまだ課題も多い。振興センターは、引き続き温存HGを中心に、IPM技術の改良と農家交流の促進に取り組む。

オクラ栽培講習会の開催

中芸地区では、昨年度から特にオクラの栽培面積が増加しているが、黒斑病などの市場病害発生事故があり、その軽減対策と生産安定が急がれている。

そこで、4月26日～28日に6か所で栽培講習会を行い、40人が参加した。会では病害虫防除や追肥のタイミング、イボ果対策の他、南国市でオクラ現地検討会を行った際のビデオを見せ、理想的な樹作りについてイメージしてもらった。また、今後の管理と共に、①省力的で生産安定につながる施肥方法、②農薬ドリフト対策としてドリフト低減ノズルや防風ネットの利用、③対象病害虫、使用濃度、使用回数を自己チェックできる農薬管理表、④黒斑病の防除について、紹介をした。

一方、5月25日にはオクラの市場事故低減に向けプロジェクトチームを立ち上げ、実証試験を行うなど今後市場事故ゼロをめざして活動を展開していく。